

PRAEVIDENTIA DAILY (1月30日)

昨日までの世界：豪ドル安、ユーロ/フラン続伸、SARB はハト派化せず

昨日は、豪ドルをはじめとするコモディティ通貨が対米ドルで下落を続けたほか、ギリシャ懸念は煽るものの、スイス中銀による介入とみられるユーロ/フランの上昇を受けてユーロ/ドルが反発したのが特徴的だった。

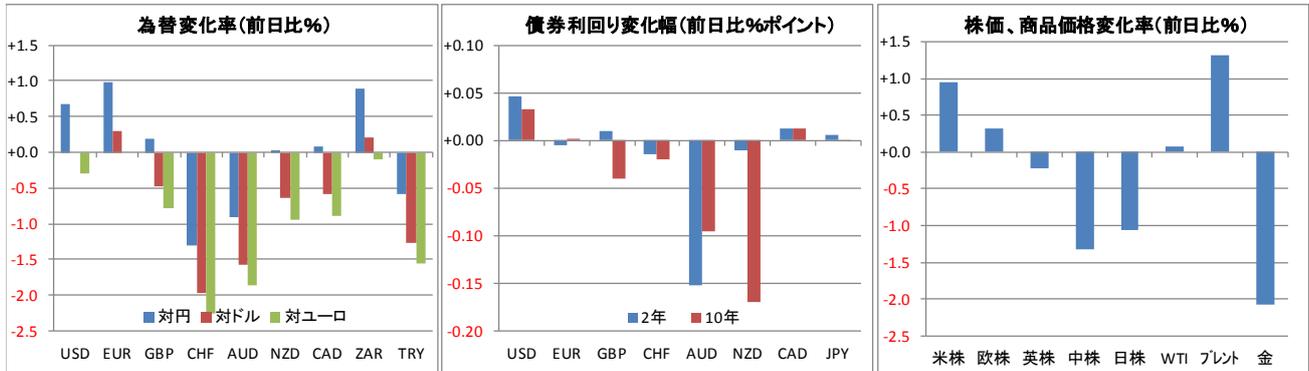
コモディティ通貨をみると、昨日早朝の RBNZ のタカ派から中立化につれて NZ ドルだけでなく豪ドルやカナダドルもつれ安となった。特に豪ドルの下落が大きく、特段の個別材料はなかったようだが、昨日は豪州の主要輸出品である鉄鉱石や石炭の海上輸送運賃と関係が深い**バルチック海運指数**が 29 年振り安値へ低下したことも重石になったとみられる。カナダドルは、原油価格が一時大きく下落したことから続落、その後原油価格は下落分を取り戻すまで反発したものの、カナダドルの反発は鈍かった。

ユーロ圏では、ギリシャ国債利回りが一時大きく上昇するなどギリシャ懸念は煽っているものの、ユーロ/フラン相場がスイス中銀によるフラン売り介入によるとみられ欧州時間に大幅上昇したことから、ユーロ/ドルもつれ高となり、1.12 ドル台後半から一時 1.13 ドル台後半へ上昇した。もっとも、その後は米株高を受けたドル高もあって再び 1.12 ドル台へ急反落した。この間、デンマーク中銀は追加利下げを行ったが、ユーロ/クローナ相場は殆ど動いておらず、ユーロ/ドルへの影響はあまりなかったようだ。

ドル/円は、前日の FOMC 後に大きく低下していた米 2 年債利回りがアジア時間から急反発し、その後も米株価と共に反発基調となったから、117 円台半ばから一時 118.48 円へじり高となった。発表直後の反応はあまりなかったが、米新規失業保険申請件数は 26.5 万件と前週及び市場予想を大きく下回り 15 年振りの低水準となっており、米労働市場にとって好材料ではあった。

この間、南ア準銀 (SARB) は市場で利下げ期待が煽る中、利下げのハードルは高く、持続的なインフレ・インフレ期待の低下が必要として、全会一致で政策金利を 5.75% で据え置いたことから、発表後にランドが上昇した。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



きょうの高慢な偏見：ソリッドな成長のユナイテッドステイトはサバイバーか？¹

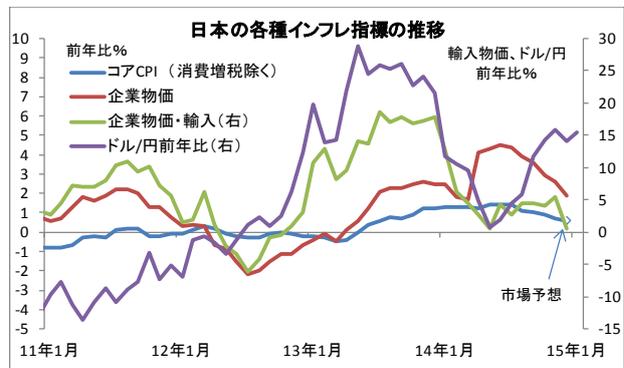
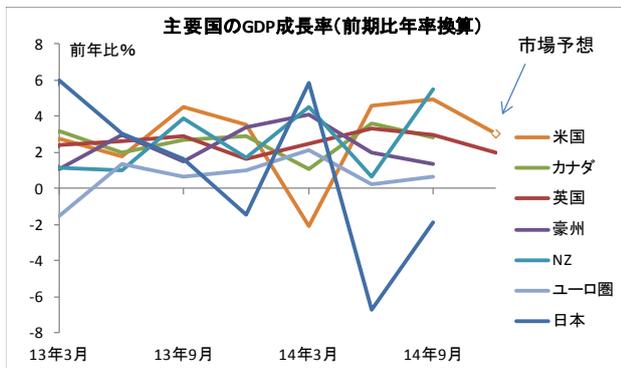
きょうの注目通貨：USD/JPY ↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
本邦 12 月コア CPI 前年比	8 : 30	+2.7%	+2.6%	消費増税分が+2.0%
本邦 12 月全世帯家計調査消費支出・前年比	8 : 30	-2.5%	-2.5%	
本邦 12 月鉱工業生産・前月比	8 : 50	-0.6%	+1.3%	
豪 12 月民間信用・前月比	9 : 30	+0.4%		
Rosengren ポストン連銀総裁発言	16 : 45			
スペイン 1 月 HICP 前年比	17 : 00	-1.1%	-1.5%	
ユーロ圏 1 月 HICP 前年比・速報	19 : 00	-0.2%	-0.5%	
米 4Q GDP 速報値・前期比年率	22 : 30	+3.5%	+3.0%	
米 4Q 雇用コスト指数・前期比	22 : 30	+0.7%	+0.6%	
カナダ 11 月 GDP・前月比	22 : 30	+0.3%		
米 1 月シカゴ PMI	23 : 45	58.3	57.5	
米 1 月ミシガン大消費者信頼感・確報	0 : 00	93.6	98.2	速報は 98.2
Tarullo・FRB 理事発言（マクロプルーデンス）	2 : 45			中立、常に投票権あり

（出所）トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

ドル/円については、米 4Q GDP および本邦コア CPI が注目される。本邦コア CPI は、日銀が 2%インフレ目標達成時期について 2016 年度への後ずれ容認姿勢を醸し出していることから、多少の鈍化では追加緩和期待は高まりそうにない。とは言え、家計調査や鉱工業生産の予想比下振れと合わせて、コア CPI が予想を下回るようだと、さすがに何かやらねばならないという雰囲気が強まり、円安圧力となりそうだと（下図を参照）。他方、米 GDP 成長率は前期から+3.0%へ鈍化する見込みとなっており、2%台へ下振れするようだとドル売り圧力が強まりそうだと。このため、ドル/円は 116~119 円のレンジ推移を確認する振れに留まりそうだと。

ユーロ圏ではスペインおよびユーロ圏分 HICP 速報が発表予定で、いずれも前月からマイナス幅が大きく拡大する見込みとなっている。もっとも、ECB が既に量的緩和を決定し、3 月に購入開始であることから、ユーロ圏経済指標は 3 月中までは金融政策期待の変化に繋がりにくく、材料視されにくそうだと。むしろギリシャ情勢の悪化からくるユーロ売り圧力の継続の方が重要だろう。



¹ YMO2 作目のアルバム「ソリッド・ステイト・サバイバー」より。FOMC は 1 月声明文で米景気拡大ペースを堅調 (solid) と形容した。

来週の注目通貨：USD/JPY↑、AUD↓

来週の指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
<1日>				
中国1月製造業PMI	10:00	50.1	50.2	
中国1月非製造業PMI	10:00	54.1		
<2日>				
中国1月HSBC製造業PMI 確報	10:45	49.6		速報は49.8
英1月製造業PMI	18:30	52.5		
米12月コアPCEデフレーター前年比	22:30	+1.4%		
米1月ISM製造業景況指数	0:00	55.5	55.5	
<3日>				
豪12月貿易収支・豪ドル	9:30	-9.25億		
豪RBA金融政策決定	12:30	2.50%		一部に利下げ期待も
トルコ1月総合CPI前年比	17:00	+8.17		インフレ目標は5±2%
英1月建設業PMI	18:30	57.6		
<4日>				
中国1月HSBCサービス業PMI	10:45	53.4		
英1月サービス業PMI	18:30	55.8		
ユーロ圏12月小売売上高・前月比	19:00	+0.5%		
トルコ中銀金融政策決定・週次レポ金利	21:00	7.75%	7.00%	
米1月ADP民間雇用者数	22:15	+24.1万人	+21.5万人	
米1月ISM非製造業景況指数	0:00	56.2	57.2	前月雇用指数は56.0
<5日>				
豪12月小売売上高・前月比	9:30	+0.1%		
英BoE金融政策委員会・政策金利	21:00	0.50%	0.50%	
米12月貿易収支・ドル	22:30	-390億	-387億	
カナダ12月貿易収支・カナダドル	22:30	-6.4億		
<6日>				
独12月鉱工業生産・前月比	16:00	-0.1%	+0.4%	
米1月非農業部門雇用者数	22:30	+25.2万人	+23.0万人	
同失業率		5.6%	5.6%	
同平均時給・前月比		-0.2%	+0.3%	
カナダ1月雇用者数変化	22:30	-4300		
同失業率		6.6%		

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

来週は米雇用統計、特に平均時給が反発するかが最大の焦点となる。前月分では非農業部門雇用者数が予想以上に増加し、失業率が低下したにも拘らず、平均時給が前月比で予想外のマイナスとなったことを受けて、利上げ期待の後退からドルが下落するという非常に珍しい反応となっていた。もっとも、他の賃金関連指標は全体的に上昇基調となっている中で平均時給の低下は例外的で、今回予想通り反発が確認されれば、ドル/円は119円台乗せが視野に入るだろう。

もう一つの焦点はRBAで、カナダ中銀のサプライズ利下げ、RBNZのタカ派取下げ・中立化に続いて、RBAが利下げを行うかだ。次回3月利下げを予想する向きもあることから今回利下げが100%織り込まれている訳ではないため、実際に利下げを行えば豪ドルや続落するだろう。他方、見送りの場合は一旦買い戻されるが、次回以降の利下げ期待が残るため、反発は限定的となりそうだ。

ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第2733号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641